

東京オリンピック、パラリンピックの開催が決まり、2020年に向け放送の高画質化の検討が進められています。また、ネットワークでも高画質映像の配信サービスへの期待が高まり、特に、フルHD (High Definition) の4倍の解像度となる4K (3,840×2,160画素) は、早期に普及することが予想されます。今回、4Kに対応した映像処理エンジン“レグザエンジン CEVO 4K”<sup>(注)</sup>をいち早く開発し、4Kの技術開発で先行するとともに、このエンジンを搭載した〈レグザ〉Z8Xシリーズを商品化しました。また、パソコン(PC)の高画質化も同時に進め、従来の製品にはない高精細で広色域な画像を再生するdynabook™ KIRA V832を開発しました。一方、新興国向けに商品化したテレビ(TV) L3300では、バックライトと映像処理技術を融合し、高輝度化を実現しました。

高画質化と同様に高機能化にも注力しました。国内では、ユーザーが指定することにより自動的に番組を録画する丸撮り機能を強化した〈レグザ〉Z8シリーズを商品化しました。これは、当社が推進している製品設計のグローバルな共通化の第1弾となる製品です。PCでは、従来のクラムシェルタイプと異なり、表示部分とキーボード部分が分離可能なタッチャブル Ultrabook™ PC dynabook V713<sup>(注)</sup>を開発し、また、独自の手書き入力技術を駆使したレグザタブレット AT703<sup>(注)</sup>を発売しました。一方、新たな試みとして、端末側の付加価値向上だけでなく、業務効率を改善するソリューションの開発も進めています。

今後は、高画質化や高機能化とともにクラウドサービスとの連携機能を向上させ、商品力とサービスの強化を目指します。

(注) ハイライト編のp.22、23に関連記事掲載。

統括技師長 安木 成次郎

### ● タイムシフトマシン対応 4K大画面〈レグザ〉Z8Xシリーズ



Z8Xシリーズ (84/65/58V型)

REGZA Z8X series 4K ultra-high definition (Ultra HD) liquid crystal display (LCD) TVs

新開発の映像処理エンジンとフルHDの4倍の画素数を持つ4Kパネルで構成される、高画質映像処理システム“シネマ4Kシステム”を搭載した〈レグザ〉Z8Xシリーズを商品化した。

この製品は、映像処理エンジン“レグザエンジンCEVO 4K”を搭載し、新たな“4K超解像技術”による高画質化を実現した。また、地上デジタル放送の中からユーザーが指定する最大6チャンネルを丸ごと録画し、さかのぼって視聴することができる“タイムシフトマシン”機能を搭載した。更に、放送と通信の新しい連携サービス“ハイブリッドキャスト”に業界で初めて<sup>(注)</sup>対応している。

(注) 2013年5月時点、当社調べ。この機能を使用するためにはインターネットへの接続環境が必要。

### ● Turbo LED™ バックライト制御機能を搭載した 新興国向け高輝度TV L3300



L3300

L3300 LCD TV with "Turbo LED" backlighting

新興国で当社独自の高画質を訴求するため、Turbo LED™ バックライトを搭載したL3300を商品化した。画面中央にLED (発光ダイオード)を追加することで、従来のTVに比べ、1.5倍の明るさを実現した<sup>(注)</sup>。

通常はTurbo LED™ バックライトを最大に点灯させているが、比較的明るいシーン、全体的に明るさが少ないシーン、及びスクロールしているシーンといったむらが視認される映像を検出すると、むらが見えないよう点灯量を制御することで高画質化している。また、ジャギーやモアレを抑えながら鮮鋭化する機能や、輝き感を再現する機能も搭載している。ユーザーは、これらの機能により、明るく高精細な映像を楽しむことができる。

(注) 当社L2300シリーズとの比較。

## ● dynabook KIRA V832

薄型で軽量のUltrabook™ PC dynabook KIRA V832を商品化した。

軽くて強度にも優れるマグネシウム合金製のきょう体に、高精細 WQHD (2,560×1,440 画素) の13.3型液晶ディスプレイ、静電容量式タッチパネル、ハーマンインターナショナル社製ステレオスピーカ、8 Gバイトデュアル チャンネルメモリ、及び128 GバイトのSSD (ソリッドステートドライブ) を搭載し、高い可搬性と高性能を両立させた。

また、製造ラインで1台1台調整されたディスプレイの色特性、机からの反射を考えたスピーカの音響特性、たわみにくいきょう体やキーキャップの形状が生み出す快適な打鍵感、及び精度の高いきょう体設計など、高機能と高性能に加え高い品位感も実現した。

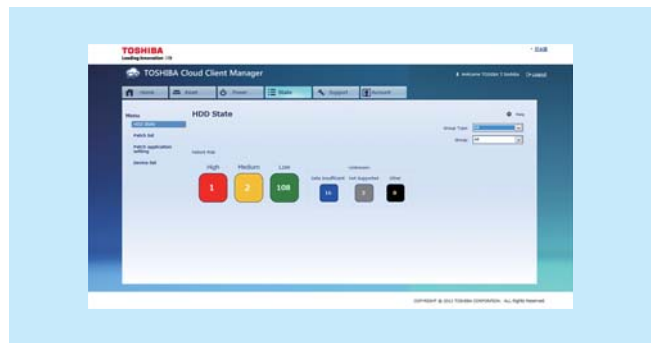


Ultrabook™ PC dynabook KIRA V832  
dynabook KIRA V832 Ultrabook™ PC

## ● クラウドシステム上でICT資産の管理を行うTOSHIBA Cloud Client Manager

ICT (情報通信技術) 端末の多様化に伴い、クラウドシステム上で企業の業務用端末を管理するソリューション TOSHIBA Cloud Client Manager (TCCM) を開発した。

TCCMは管理対象の端末からハードウェア情報やソフトウェア情報などを収集し、顧客用ポータルサイトを通じて対象端末の管理を行う。更に、各種ソフトウェアの修正モジュールや電力管理プランの一括適用を行う機能を備えているため、業務を円滑に継続させ、電力消費を抑制できる。管理対象の端末が当社製ノートPCの場合、5億件ものビッグデータを解析することで開発した故障予兆検知機能に基づくHDD (ハードディスクドライブ) のモニタリングにより、データを損失するリスクも低減できる。

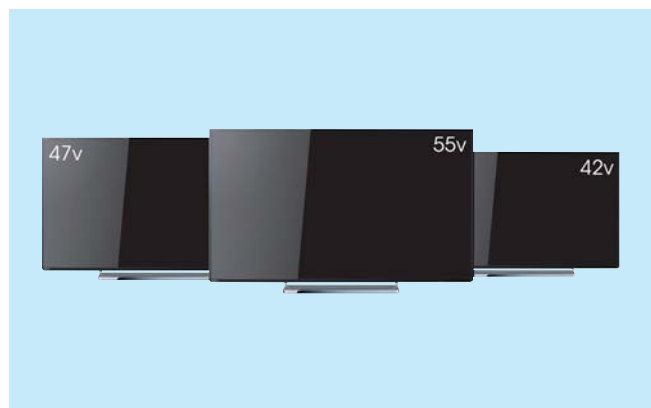


TCCM ポータルサイトにおけるHDDモニタリングの画面  
Hard disk drive (HDD) status monitoring screen on Toshiba Cloud Client Manager (TCCM) portalsite

## ● タイムシフトマシン対応〈レグザ〉Z8シリーズ

鮮明で自然な色彩の映像と、明瞭で迫力あるサウンドを実現するとともに、見たい過去番組を好きなきに楽しめる“タイムシフトマシン”を進化させた、〈レグザ〉Z8シリーズを商品化した。

直下型の広色域LEDバックライトを採用し、従来機種<sup>(注1)</sup>に比べて輝度とダイナミックコントラスト<sup>(注2)</sup>を約75%、色域を約14%高めたほか、動画応答性も約2倍に向上させた<sup>(注1)</sup>。また、“レグザパワーオーディオシステム”により、臨場感のあるサウンドを実現した。更に、タイムシフトマシンも、従来の地上デジタル放送6チャンネルに加えBS (放送衛星) 放送や110度CS (通信衛星) 放送などの中から1チャンネル<sup>(注3)</sup>を、専用のUSB (Universal Serial Bus) ハードディスク (別売) に丸ごと録画することが可能になった。



Z8シリーズ (55/47/42V型)  
REGZA Z8 series LCD TVs

(注1) 当社 Z7 シリーズとの比較。

(注2) 画面を正面から見た場合の、全白信号での画面最大輝度と全黒信号での画面最小輝度の比。

(注3) 地上デジタル放送も設定可能。